

所 属	歴史博物館
所属長	門田 真由美
電 話	06-6489-9801

尼崎市立歴史博物館第9回企画展 「尼崎紡績－工都尼崎のはじまり－」を開催します

1 会期等

尼崎市立歴史博物館では、年間3回程度、尼崎の歴史や文化財に関して、館蔵資料を中心に展示する企画展を開催しています。第9回となる今回は、「尼崎紡績－工都尼崎のはじまり－」をテーマに開催します。

会 期：7月8日（土）～9月3日（日）

時 間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日、ただし7月17日（月・祝）は開館し、翌日が休館

2 企画展の概要

(1) 概 要

明治22年（1889）、尼崎最初の近代的大工場である尼崎紡績が設立され、これを契機として尼崎は工業都市として発展しました。現存市内最古の洋館であり、市内に残る尼崎紡績唯一の歴史遺産である旧尼崎紡績本社事務所（前ユニチカ記念館）を尼崎市が取得したことを記念して、同記念館展示資料も活用して尼崎紡績の歴史を紹介します。

(2) 会場

尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室

(3) 展示構成と主な展示予定資料

序 日本近代紡績業のはじまり

- ・ 戎島紡績所図（当館所蔵）
- ・ 総糸器械図（当館所蔵）

① 尼崎紡績の設立

- ・ 尼崎紡績株式会社全景（当館所蔵）
- ・ 尼紡本社絵葉書「辰巳橋ヨリ尼崎紡績本社ヲ望ム」（当館所蔵）

② 尼崎紡績の発展

- ・ 第五回内国勸業博覧会一等賞牌（当館所蔵、ユニチカ記念館旧蔵）
- ・ 尼崎紡績時代からの商標を紹介した額（当館所蔵、ユニチカ記念館旧蔵）

③ 尼崎紡績の人びと

- ・ 菊池恭三肖像画（当館所蔵、ユニチカ記念館旧蔵）
- ・ 尼崎紡績創業10周年記念従業員集合写真（当館所蔵）

④ 大日本紡績尼崎工場の姿

- ・ 大日本紡績尼崎工場模型（当館所蔵、ユニチカ記念館旧蔵）
- ・ 大日本紡績尼崎工場航空写真（当館所蔵）

- ⑤ 尼崎紡績本社事務所の歩みと歴史的意義
 - ・ 尼紡本社絵葉書タトウ（当館所蔵）
 - ・ ユニチカ記念館模型（当館所蔵、ユニチカ記念館旧蔵）
- (4) 出品点数
約50点
- (5) 関連事業
 - ① 水曜歴史講座
 - ・ 日 時 7月12日（水） 午後2時～4時
 - ・ 会 場 尼崎市立歴史博物館 3階 講座室
 - ・ 講 師 尼崎市立歴史博物館 学芸員 桃谷和則
 - ・ 演 題 尼崎紡績－工都尼崎のはじまり－
 - ・ 定員等 70人、7月5日（水）から電話・ファクスで先着順受付、受講無料
 - ② ギャラリートーク
 - ・ 日 時 7月8日（土）・30日（日）、8月13日（日）、9月2日（土）
各日午後2時～3時
 - ・ 会 場 尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室
 - ・ 解 説 尼崎市立歴史博物館 学芸員 桃谷和則
 - ・ 内 容 企画展に展示している主な資料について担当学芸員が解説します。
 - ・ 定員等 各回先着20人、事前申込不要当日直接会場へ、参加無料

3 同時開催「歴史博物館ができるまで」

(1) 概要

昭和50年代に構想され、昭和61年（1986）に尼崎市制70周年記念事業として整備事業が開始されながら、令和2年（2020）10月に実際に開館するまで30年以上の歳月を要した尼崎市立歴史博物館の開館までの歩みを紹介する展示を、第8回企画展から引き続いて、第9回企画展期間中も公開します。

(2) 会場

尼崎市立歴史博物館 3階 展示学習室

(3) 主な展示資料

- ・ 尼崎市立歴史博物館・中央図書館基本設計
- ・ 尼崎市立歴史博物館展示基本設計
- ・ 歴史博物館収蔵資料展ポスター

(4) 出品点数

62点（写真パネル含む）

4 担 当

尼崎市教育委員会 社会教育部 歴史博物館 担当学芸員：桃谷和則

〒660-0825 尼崎市南城内10番地の2

電話 06-6489-9801

ファクス 06-6489-9800

尼崎市立歴史博物館第9回企画展

観覧無料

尼崎紡績

—工都尼崎のはじまり—

現存する尼崎最古の洋館であり、工業都市尼崎発展の契機となった尼崎紡績に関して尼崎に残る唯一の建築物である旧尼崎紡績本社事務所（ユニチカ記念館）が尼崎市の所有になったことを記念して、同記念館旧蔵資料も活用し、尼崎紡績の歴史を紹介します。

令和5年(2023)7月8日(土)～9月3日(日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日、ただし7月17日(月・祝日)は開館し、翌日休館

会場 尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室

尼崎紡績株式会社全景(部分、明治35年、当館所蔵)

水曜歴史講座 受講無料

日時 7月12日(水) 午後2時～4時

演題 尼崎紡績—工都尼崎のはじまり—

講師 当館学芸員

会場 当館 3階 講座室

申込 7月5日(水)から電話・FAX受付 定員先着70名

ギャラリートーク 参加無料

企画展会場で主な展示資料を解説します。

日時 7月8日(土)・30日(日)、8月13日(日)、
9月2日(土) 各日午後2時～3時

会場 当館 3階 企画展示室

申込 事前申込不要 定員当日先着各20名

同時開催

歴史博物館ができるまで

構想開始から令和2年(2020)10月の開館まで、30年以上に及んだ尼崎市立歴史博物館の開館までの歩みを紹介します。
会場:3階 展示学習室 **観覧無料**



尼崎市立歴史博物館

AMAGASAKI CITY MUSEUM OF HISTORY

〒660-0825 兵庫県尼崎市南城内10番地の2

電話 06-6489-9801(歴史博物館文化財担当)

電車・バス…阪神尼崎駅から南東へ徒歩約10分

自動車…玉江橋線開明橋交差点から東へ約500m

隣接する市立城内駐車場(有料)をご利用ください

旧尼崎紡績本社事務所

https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/manabu/bunkazai_0/index.html

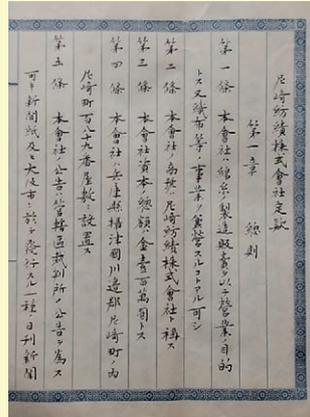


○尼崎紡績の設立

江戸時代は城下町として栄えた尼崎でしたが、幕末・維新时期には町は疲弊し経済は停滞していました。このような状況を打破し尼崎の町に再び繁栄を取り戻すため、尼崎の商人や旧尼崎藩士らは、綿糸紡績の大工場を尼崎に設立することを考えました。しかし、尼崎の資本力だけでは大工場設立は不可能でしたので、大阪財界を頼ることとし、両者の共同出資により、明治22年(1889)尼崎紡績会社が設立されました。尼崎紡績は尼崎町のうち辰巳町(現在の尼崎市東本町)に煉瓦造2階建の大工場を建設し、明治24年(1891)に操業を開始しました。これは兵庫県下では初の1万錘規模の大紡績工場でした。



▲尼紡本社絵葉書「辰巳橋ヨリニ崎紡績本社ヲ望ム」



▲尼崎紡績会社定款



▲鹿児島から初めて来た女性工員たち

○尼崎紡績の発展

尼崎紡績は、技術的に困難とされた細番手・中番手の綿糸生産に主力を注ぎ、他社を合併しながら企業規模を拡大していきました。そして、大正7年(1918)には摂津紡績を合併して社名を大日本紡績と改め、日本最大の紡績会社へと発展していきました。また、この尼崎紡績の成功が契機となり、尼崎南部で工業が発展していくことになりました。



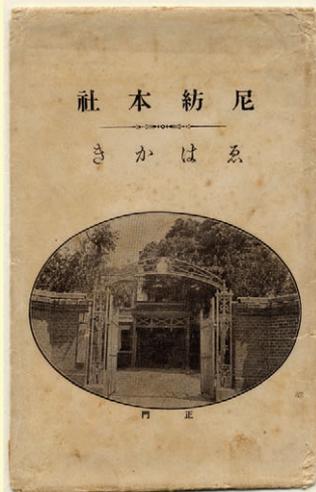
▲第五回内国勧業博覧会一等賞牌



▲大日本紡績尼崎工場模型

○尼崎紡績本社事務所の歩みと歴史的意義

尼崎紡績では、明治32年(1899)、尼崎本社工場内に本社事務所を新築することを決定し、翌年、煉瓦造2階建の本社事務所が竣工しました。昭和20年(1945)の空襲で尼崎工場は大被害を受け、尼崎での綿糸生産は事実上終止符を打ちましたが、旧尼崎紡績本社事務所(旧事務所)は戦災を免れ、昭和34年(1959)から日紡記念館(後にユニチカ記念館)として一般公開されました。旧事務所は、現存する尼崎市内最古の洋風建築物であり、尼崎紡績に関して市内に現存している唯一の建築物です。いわば、工業都市尼崎の歩みを象徴するシンボルともいべき建築物ですので、令和5年(2023)3月、尼崎市が旧事務所を取得し、市民共有の歴史遺産として保存・活用していくことになりました。



▲尼紡本社絵葉書タワウ
(大正初期頃の本社事務所が奥に見える)



▲昭和30年頃の旧事務所



▲ユニチカ記念館模型

※都合により写真の資料を展示しない場合があります。